

暗がりのクリスマスツリー

愛知県名古屋市中村区



ツリーの高さは約 15m。蓄光の光り方がどのように光るのが想像できなかったため、試行錯誤の繰り返しで、イベント前には 5 回ほど検証した。



施設 2 階貫通路の天井からはバナーを吊るした。ツリー同様防犯用砂利を使用している。

蓄光する防犯用砂利石でクリスマスツリーを製作

JPビルマネジメント㈱が運営する商業施設「KITTE名古屋」で、昨年 11 月 9 日から 12 月 25 日の期間、「暗がりのクリスマス」が開催された。テーマは「ライトダウン」。施設 1 階のアトリウムにはツリーを設置し、2 階の貫通路の天井からはツリーのデザインが施されたバナーを吊るした。

企画・設計・施工を手掛けたのは㈱スペース名古屋本部。同社クリエイティブ事業部事業部長クリエイティブディレクター尾西雄一郎氏は「電力需給の逼迫により、省エネの重要性が叫ばれる昨今、当たり前のように電気を

使用することに目を向けるきっかけになればと思い、電気を極力使用しないクリスマスツリーを企画した」と話す。

ツリーおよびバナーに使用したメイン素材は、県内で車載用プラスチック部品製造メーカーが開発した蓄光する防犯用砂利で、もともと産業廃棄物として処理されるはずだったプラスチックを再利用している。

砂利の使用総数は約 5 万個で重さにして約 2t、鋼製のワイヤーに手作業で砂利を通し、天井から 1 本ずつ等間隔に 800 本吊るしている。

砂利は LED で蓄光するタイプで、ツリーやバナー周辺にブラックライトを設置。砂利に照射すると蓄光して発光するため、電力の使用量を抑えたクリスマスツリーになっている。

尾西氏は「イルミネーションの目的は、見た人が綺麗だと思ってもらうこと。SDGs の影響で環境配慮が求められる時勢だが、それを押し付けるようなものにはしたくなかった。今回のクリスマスツリーは、イルミネーションの目的をベースに社会的な事情を落とし込んでいる」と話す。

また、愛知県は車社会。車の交通量が多く、事故件数も多い。地域の交通安全啓発を狙い、今回使用した砂利は、名古屋市中村区の小学校 15 校を対象に 1000 個、キーホルダーにして配布される。

主 催：JPビルマネジメント株式会社
期 間：2022 年 11 月 9 日～12 月 25 日
企画・設計・施工：株式会社スペース